

桜さく島

春のかはたれ

竹久夢二

青空文庫

暮れゆく春のかなしさは

歌ふをきけや爪弾の

「おもひきれとは死ねとの謎か
死ぬりや野山の土となる」

すみだがは
隅田川

「春信」の

をんなかみ

女の髪をすべりたる

黄楊つげの小櫛おくしか

月つきの影かげ。

「どうせ売うられる身みぢやほどもに

静しづかに漕こぎやれ

勘かん太た殿どの」

ひとかひ
人買

あきひ
秋の日は

あかとんぼ
赤い蜻蛉のかはたれに

へいかげ
堀の蔭から
あをづきん
青頭巾。

ひとかひ
やれ人買ぢや、
ひとかひ
人買ぢや

どこに
何処へ逃げようぞ、
かく
隠れようぞ。

あかとんぼ
赤い蜻蛉が飛びまわる。

御籤くじ

おも
思ひあまりて御籤みくじを引ひけば
なんとせうぞの凶けふと出でる。
いつそ打明うちあけ話はなさうか
ひとりで泣ないて済すまさうか。
え、なんとせう川かは柳やなぎ。

すゞめ
雀の子

トコ ドンドコ ピイ ヒヤラヒヤア
 麦むぎの上うへをば風かぜが吹ふく。

やくしや 役者むねの群むれにはぐれたる
 こどもごころ 子供心こころのはかなさは

……うちの浦うらのちさの木きに

すゞめ 雀すゞめが三羽ばとうまつて

一羽はの雀すゞめがいふことにや

ゆふべ御座つた花嫁御ござ はなよめご

何が悲しゆてお泣きやるぞなにかな な

お泣きやるぞ………

今のわが身につまされていま み

ほろりほろりと泣いてゆくな。

しろくすり
白い薬

きいふくろ
黄な袋のセメンエン
ねつ ねつ
熱ある舌にしみる時。
くら そら
暗い空から雪が降る。

こたつ うへ
炬燵の上の黒猫の
あを みとみひか
青い瞳の光る時。
ひつぎ やね
柩の屋根へ雨が降る。

まち
街の 五月

……チン ツン くどけば なあびく

チツツン ツントン 相生あひおひの松まあつ……

くちさみせん あしびやうし
口三味線の足拍子

くうきざうり やわら
空気草履の柔かさ。

かた はないろ
肩のうへでは花色の

ひがさ ゑ
日傘がまわる絵がまわる。

……またいついつもの約束やくそくのチンツン
日ひをまつ 時ときまつ 暮くれをまあつ……

越後ゑちごの山やま

角兵衛獅子かくべいししの悲かなしさは

親おやが太鼓たいこ打ちや、子こが踊おどる。

股またの下したから峠とうげを見みれば

もしや越後ゑちごの山やまかと思おもひ

泣ないてたもれなとも／＼に。

角兵衛獅子かくべいししの身みの辛つらさ

輪廻りんねはめぐる小車おくるまの

蜻蛉とんぼがへりの日ひも暮くれて
旅籠やどをとるにも銭ぜにはなし
逢あひの土山雨つちやまあめが降ふる。

夏なつのかはたれ

一ひや

二ふや

お駒こまさん。

煙草たばこの けむりは

丈ぢやう八つあん……………

とんくとんとつく手鞆てまり。

白しろい指ゆびからはなれて見れど

未練みれんが残のこるといつたよに

やるせないよに往来する。ゆきぎ

ゆらくゆれる伊達帯からだておび

えどむらさき江戸紫の日は暮れる。ひく

三みや

四よや

夕霧ゆふぎりさん……………

夢ゆめ

春はるの夜よの、夢ゆめのひと一つはかくなりき。

丹塗にぬりの欄らんの長廊わたどのに

散ちりくる花はなを舞まひ扇あほぎ

うけて笑ゑみたる「歌磨うたまろの

女をんな」の青あをき眉まゆを見みき。

冬ふゆの夜よの、夢ゆめ一つはかくなりき。

黒くろき頭巾づきんを被かぶりたる

ひとがひ
人買の背に泣いじやくり
やまみさき
山の岬をまわる時、
ひろしげ
「廣重の海」ちらと見き。

雪ゆきの降ふる日

雪ゆきの降ふる日ひは、駒鳥こまどりの
 紅あかい胸毛むなげのおどくと
 風かぜに吹ふかれるやるせなさ。

雪ゆきの降ふる日ひに、小雀こすずめは
 赤あかい木この実みが食たべたさに
 そつと見みに出でるいぢらしさ。

揺籃えうらんの記憶きおく

(ねんねしなされ。まだ日は高ひたかい
暮くれりやお寺てらの鐘かねがなある。)

村むらのはづれにちらくするは
虫むしか蛸ほたるか人魂ひとたまか。

さうじやないく。母かさんの

点つけさしやんした雪洞ほんほりが

風かぜに吹ふかれてゐるわいな。

（ねんねしなされ。まだ夜は夜中
あけ明りやお寺てらの鐘かねがなある。）

やま山のうへをばふわ〜飛とぶは
とりけもの鳥か獣か三ヶ月みづきか。

さうじやない〜。母かさんの

こそで小袖そに染めた牡丹ぼたんの花はなが

あめ雨ふに降られてゐるわいな。

文ふみ

雲くもに別わかれて野のに降おりし

雨あめのこゝろのやるせなさ

思おもひまゐらせ候そろ※

空そらになげたる彩いろぶみ 文ふみは

森もりにかゝりし虹にじかいな。

芝居しばゐごと

雪ゆきの降ふる夜よのかなしさに
 姉あねの小袖こそでをそと被かつぎ

「……でんちうじや、はりひぢじや

島しまさん、紺こんさん、なかのりさん……」

踊おどりくたびれ「袖萩そではぎ」の

肩かたに小袖こそでをうちかけて

涙なみだながらの 芝居しばゐ事こと

「寒さむかろうとて着きせしまする」

このまあつもる雪ゆきわいの。

折鶴をりづる

行灯あんどのかげにとつおいつ
娘むすめごころの羞はつかしや
何なんと答こたへもしら紙かみの
膝ひざのうへにて鶴つるを折をる。

あをまど
青い窓

となり
隣のとなさん、何処へいた。

むか
向ふのお山へ花摘みに

つゆくさ
露草 つらくく月見草。

えだお
一枝折れば、ぱつと散る

えだお
二枝折れば、ぱつと散る

えだ
三枝がさきに日が暮れて

ひがし
東の紺屋へ宿とろか、

みなみ 南の紺屋へ宿とろか。

ひがし 東の紺屋は赤い窓、

みなみ 南の紺屋は青い窓。

みなみ 南の紺屋へ宿とれば、

よぎ 夜着は短かし夜は長し。

うつらくとするうちに

あを 青い窓から夜があけた。

青空文庫情報

底本：「桜咲く島 春のかはたれ」洛陽堂

1912（明治45）年2月24日発行

※近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp/>) で公開されている当該書籍画像に基づいて、作業しました。

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記を新字にあらためました。

※文中の「∴」は底本では1文字あたり4点ないしは5点の点線ですが、文字の幅に合わせた「∴」で代用しました。

※歴史的仮名遣いから外れたものも、底本通り入力しました。

※促音「っ」の小書きの混在は底本のままとしました。

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力：土屋隆

校正：田中敬三

2005年8月22日作成

2010年11月1日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

桜さく島

春のかはたれ

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 竹久夢二

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>